

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400087		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム太田		
所在地	愛知県半田市乙川太田町1-7-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.i-koyu.or.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太田では 併設している多機能ホームとの交流も活発に行っており、地域への行事への参加も積極的に行っております。多機能ホーム太田の周りには、大きな公園・スーパー・小学校・中学校・クリニック・喫茶店・コンビニ等があり地域に根差した施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者仲間が良く、利用者の表情や行動を見て察し、利用者本位の支援に努めホームで楽しく安心して暮らせるように努めている。また、近隣の散歩や月1回は、芋ほり、花見など外出する機会があり身体機能低下予防と気分転換を図っている。他に月1回太田喫茶を開店して、利用者はケーキとコーヒーなど飲みながらいつもと違う雰囲気を楽しむことで楽しみの一つとなっている。朝と夕方に職員間で申し送りを行い情報共有しており、ケアサービスが途切れないように努めている。運営推進会議には利用者家族がほぼ全員参加しており、家族との関係が良好であるのが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後に職員全員で法人理念を復唱し 理念に沿った介護を実践すべく日々励んでる。	理念はりビングの目に付く所に掲示している。管理者は月1回の職員会議で折にふれて話しており、職員は周知している。また、日常業務の中で理念の下に、相手の立場に立ったサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会隣組に加入し地域の行事等に積極的に参加している。	近隣の散歩をしていることで、近隣の人と顔馴染みとなってきている。また、利用者は老人クラブのカラオケなどの行事に参加したり、近隣の神社の清掃に参加するなど地域との交流が少しずつ広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知に関しての勉強会等を運営推進会議で定期的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議では、サービスの実際・評価への取り組み等の報告を行っている。	運営推進会議は併設の小規模多機能居宅介護と合同で開催している。利用者家族の参加も多く散歩を増やしてほしいなど意見や要望を受けて、外出の機会を増やして改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(1)運営推進会議への参加依頼 (2)在宅ケア推進地域連絡協議会への積極的な参加	半田市役所には認定調査の更新の手続きに出向いたり、介護保険課に、制度に関することで分からないことがあったら相談したり助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を正しくは理解をしていない。利用者様自身を守るためのものであったとしても拘束であることを正しく理解しないとイケない。法人研修会等で勉強が行われている。	年1回法人研修で身体拘束のビデオを観て理解している。管理者は日常業務の中でスピーチロックには気をつけており、現場で見かけたらその場でそっと注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	365日24時間穏やかに過ごして頂く為にも、小さな変化も見過ごさないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について法人内での研修会があり又利用者様で成年後見制度を利用されている方の勉強会での勉強会にも参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書で説明している。又改定時には利用者様・家族様に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での家族からの意見や、連絡帳・直接口頭での意見等を職員全員で共有し改善に向け努力している。	家族の来訪は多く毎日来訪する人もいて、その時に職員は要望や意見を聞いている。また、電話をかけて相談することもある。もらった要望や意見は職員間で話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回 代表者会議・太田会議があり、職員の意見・提案を聞き反映出来るよう、心がけている。	職員の意見は月1回のミーティングで要望や提案を聞いている。管理者はそれを上司に伝えて、改善できるものは改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回各自目標を立て、どう実行出来るか具体的に掲げている。頻繁に代表者が施設を訪れ 意見・提案を聞く機会を設けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会への参加やミーティングでの勉強会、個々に指導もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内で勉強会・在宅ケア推進地域連絡協議会等に積極的に参加出来るよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何が必要なのか その方にあったサービスの提供を心掛け、ご本人には不安のない日々を送って頂くよう職員全員で支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望等もお聞きしながら 施設での生活を安心して送って頂けるよう密に連絡をとりあい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・家族様からの「今」の状態をきちんと把握し、必要な支援は何か検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔なじみの職員とともに生活のリズムが出来ている。常に尊敬の意を持ち、共に協力し生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有しながら、ご家族様が出来ること、職員が出来ることをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人様の面会 ご家族様との外出等、支援させて頂いている。	ホームに知人が来訪する利用者もいるが、家族の協力の下で外食や買い物など馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を楽しんで頂くためによりいい環境になるよう職員全員で情報を共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談にのらせて頂きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご本人・ご家族に確認しプランの実行に取り組んでいる。	常日頃の利用者との会話や日記の中から、要望を聞き出すよう努めている。家族が面会に来た時や会議に参加している時に積極的に話しかけ、情報交換を行い、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・関係者の方よりの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通し、言動・行動の変化をキャッチし心身状態等、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の暮らしの中で問題が出てきた場合は職員間での話し合い・家族への連絡を通しより本人様がよりよく暮らすためのプランに変更している。	3か月ごとにモニタリングを行い、プランを見直している。家族から受診の結果を聞き取り、利用者の状態に変化があった時は、その都度対応方法について話し合い、より良いサービスの提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを毎日記入し、重要な情報は職員全員が把握出来るよう申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズにあったサービスを提供するよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春祭り・夏祭りへの参加。喫茶店や公園への散歩 スーパー・ファミリーマート・パン屋への買い物等の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の往診があり、診察も定期的に行われている。	かかりつけ医以外の特定の通院は、家族での対応をお願いしている。通院後の情報提供を毎回もらい、ホーム側も状態を把握している。新たに受診したい科ができた時は、主治医に紹介状を依頼し、スムーズに診てもらえるよう連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師と連携・相談しつつ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換・相談は密にするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在 取組はされていない。	利用者の身体機能の低下や、認知症状の重度化により考えていかななくてはならない課題であると認識している。家族の思いを考慮しながら、その場の状況に応じて最良の方法で対応していきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践・勉強会をしながら、対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に一回避難訓練を施設内で行い 年一回 消防署・ご家族様と共に行う避難訓練の機会を設けている。	建物全体で、夜間想定避難訓練を行った。訓練を通して、実際にかかる時間を把握でき、消防署から改善点、注意点などの助言をもらう事が出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけをするよう指導している。	利用者と接する時の言葉づかいに注意するとともに、特にトイレへの声掛けは小さい声で、周りの利用者にわからないようにするなどの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る声かけを心がけている。信頼関係を深め何でも話せる環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食事形態をお聞きし対応している。片付けも一緒に行っている。	利用者の意向が反映されるように生の声を業者に届け、より良く改善してもらえるように働きかけを行っている。一人ひとりの食事のペースを大切に、ゆったりと食事を摂ってもらえるように、少し距離を置いての見守りを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状態に応じ、特別食等 支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を軽減するために定期的なトイレ誘導・排泄パターンを知り声かけを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	職員が、一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時トイレへの声掛けを行っている。「ポータブルを置かない」を原則に、利用者の日常生活動作の機能が衰えないように働きかけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全体で便秘予防に努めている。排便パターンを把握し水分摂取・乳製品・運動等を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはいるが、個々の身体状況に合わせて入浴している。	週3日入浴できるようにしている。入浴を拒否される利用者もいるが、最近の入浴状況を確認しながら、利用者の意向も考慮しながら無理強いする事のないようにすすめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体・精神状態に応じて休息したり、睡眠の時間も個々の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報については、職員全員が理解するよう指導している。薬を扱う職員に関しては特に厳しく指導している。病状に変化があった場合、随時 看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態・ニーズを把握し支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り出かけられるようには努めている。本人の希望を叶えられるよう家族と共に支援している。	近所の公園への散歩や、車で花(桜、彼岸花など)を見に出かけたりする。喫茶店に出かける事もある。今後ボランティアを利用して、よりたくさんの外出援助をしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては所持しても困らない金額を家族の方との話し合いをもとに所持している。事務所預かりの方に関しては外出支援の際自由に使うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎・行事によって雰囲気作りに努めている。	台所の整理整頓、洗面所の水滴もきれいにふき取られており、清潔感があり、掃除が行き届いた共用スペースとなっている。天井からの棚に炭が並べられており、室温調整、脱臭など居心地の良い空間に一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然にお一人お一人の居場所が決まっております。ゆったり過ごして頂けるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全に暮らして頂けるよう・環境整備に努めている。	部屋のボードに家族、孫などの写真が飾られ、利用者が安心してくつろげる空間となっている。掃除が行き届いており、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	身体を安全に移動出来るよう建物内部は手すりを設置・トイレ洗面台等々安全な環境作りをしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392400087
事業所名	グループホーム太田

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地域の盆踊りなどの行事に参加したり、半田市の行事には利用者と参加している。近隣の神社の掃除に行ったり、老人クラブ主催のクラブトやカラオケに利用者が参加している。地域との交流が少しずつ増えている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は、併設の小規模多機能居宅ホームと合同で年6回開催している。グループホームの家族は全員参加しており、活動報告や要望や意見交換をしている。家族より散歩を増やして欲しいと要望があり、外出する機会を増やして、身体機能低下予防を防いでいる。その他、転倒と骨折についての講演をしている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 半田市役所の保険課と介護全般に関して分からないことは、電話で開いたり、直接出向いて相談している。また、管理者は2ヶ月に1回在宅ケア推進会議に参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族の来訪は多くその時に、家族には日常の様子や身体状況を伝えている。また、電話で会話することもある。運営推進会議の中や家族会などで要望や意見はもらっている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	/	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。